

インフルエンザの『出席停止期間』及び『完治届け書』の取り扱いについて

1 インフルエンザの出席停止期間

(1) インフルエンザの出席停止期間の基準は、『発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで』となっています。(学校保健安全法施行規則第19条第2項により)

	発症日	発 症 後							
	0 日目	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目
発症後 <u>1 日目</u> に解熱 した場合	発熱	解熱	解熱後 1 日目	解熱後 2 日目	発症後 4 日目	発症後 5 日目			
	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	登校可		
発症後 <u>2 日目</u> に解熱 した場合	発熱	発熱	解熱	解熱後 1 日目	解熱後 2 日目	発症後 5 日目			
	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	登校可		
発症後 <u>3 日目</u> に解熱 した場合	発熱	発熱	発熱	解熱	解熱後 1 日目	解熱後 2 日目			
	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	登校可		
発症後 <u>4 日目</u> に解熱 した場合	発熱	発熱	発熱	発熱	解熱	解熱後 1 日目	解熱後 2 日目		
	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	登校可	
発症後 <u>5 日目</u> に解熱 した場合	発熱	発熱	発熱	発熱	発熱	解熱	解熱後 1 日目	解熱後 2 日目	
	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	出席停止	登校可

※ 解熱した日によって出席停止期間が順次延長されていきます。

必ず休まなければいけない期間

2 インフルエンザの診断について

- (1) 発熱等の症状で、インフルエンザの感染のおそれがある場合には、病院を受診して下さい。
- (2) インフルエンザと診断されたら、必ず学校へ電話連絡して下さい。(北小 ☎:72-3025)
- (3) 診断書や完治証明書の提出は、必要ありません。

ご家庭で、しっかり検温などの健康観察をして療養してください。

*裏面の検温・健康観察表は、療養期間の目安としてご活用ください。学校への提出は、特に求めません。

*インフルエンザ以外の学校感染症に罹った場合には、診断書の提出が必要場合もあります。

主な学校感染症一覧表

もしかかったら...

おやすみして下さい

下の一覧表にあげた病気は、『学校感染症』といわれ、たとえ軽症でも登校できません。『学校感染症』にかかったら学校に連絡をし、医師の許可があるまでご家庭で安静にして下さい。

これは法律で定められた『出席停止（学校保健安全法第19条）』で、欠席扱いにはなりません。

かかる前に...
まずは予防を
心がけましょう!!



第1種学校感染症 治療するまで出席停止とする

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、SARS、MERS、H5N1 及び H7N9、新型コロナウイルス感染症

第2種学校感染症 児童・生徒に良く起こる感染症 出席停止期間、患者の隔離については守る。 診断がついたら速やかに学校へ連絡する。

病名	出席停止期間	主な症状	感染経路	潜伏期間	最も感染しやすい期間	予防方法	好発季節
インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ解熱後2日経過するまで	発熱・頭痛・腰痛・関節痛・倦怠感・鼻づまり・咳・くしゃみ・たん	気道飛沫	1~3日	発病後3~4日	流行時には人込みを避ける。マスク・うがい・手洗いを！ * 予防注射も効果があるがウイルス型が異なると効力がない	冬
百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が完了するまで	はじめは軽い咳、のどの発赤がみられる。発病後1週間位からコンコンという咳が出る。	気道飛沫	1~2週	発病後28日	患者に近づけない。予防接種：生後3~48カ月の予防接種後12~18カ月12歳に達する年	夏
麻疹	解熱後3日を経過するまで	発熱・咳・鼻水・目ヤニ。頬の内側に白い斑点(コプリック斑)ができる。発熱後4日目より皮膚に発疹。	気道飛沫	9~12日	発疹の出る5日前から、出た後4日間	患者の隔離、予防接種 	冬~春
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹(はれ)が発現した後5日を経過し、かつ、全身症状が良好になるまで	37~36の発熱。まず片側、次いで両側のあごの後ろが大きく腫れて痛む。食欲不振、嚥下困難。	飛沫	1~2週	発病前7日~発病後9日	患者の隔離 患者の唾液の付いたものが健康な人の口に触れないようにする	冬~春
風疹(3日はしか)	発疹が消失するまで	発熱、発疹、耳の後ろ、首、脇の下などが腫れる。結膜が充血する。	気道飛沫	2~3週	発疹の出る7日前から、出た後の6~7日	患者の隔離、予防接種	春~夏
水痘(水ぼうそう)	全ての発疹が痂皮化するまで	水泡のある発疹が体中に次々と出る。かさぶたとなり、先に出たものから治っていく。	気道飛沫	2~3週	発疹の出る1日前から、出た後の6~7日	患者の隔離	冬~春
咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状消退後2日を経過するまで	発熱、のどの痛み、結膜炎、首のリンパ節の腫れ。	気道、粘膜接触、汚染物	5~7日	発病後2~3週	眼やのどの健康観察を行い、充血している者や目ヤニの出ている者は、水泳禁止とする。水泳後よく流水で洗う。	夏~秋
結核	症状により学校医、その他医師において感染のおそれがないと認めるまで	初期は自覚症状なし。X線で見られることが多い。疲労感・寝汗・微熱・体重減少・肩こり・咳・たん	飛沫	1~2カ月		BCG接種 X線による早期発見 栄養と休養に注意	なし
髄膜炎菌性髄膜炎		激しい頭痛、発熱	飛沫、接触	4日以内			

第3種学校感染症 病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで

病名	出席停止期間	主な症状	感染経路	潜伏期間	最も感染しやすい期間	予防方法	好発季節
コレラ	病状により、学校医その他の医師において伝染の恐れがないと認めるまで	下痢・「米のとぎ汁」のような白い便を排泄することもある。体温低下・急速な脱水症状	口(便、嘔吐物)	数時間~5日	—	トイレ後の手洗いの励行。不衛生な食材や調理環境での危険性が高い。流行地域での生もの、生水に気をつける。	-
細菌性赤痢		寒け、発熱、腹痛、下痢、ひどい時は膿粘血便	口(便)	1~5日	—	手洗いの励行	-
腸管出血性大腸菌感染症		激しい腹痛で始まり、数時間後に水軟性の下痢を起こす。嘔吐、吐き気がある。	口	3~5日	—	手洗いの励行。加熱消毒を充分にすること。	-
腸チフス		持続する39~40の発熱、バラ疹と呼ばれる腹部や胸部にピンク色の斑点、血便または便秘	口(便、尿)	7~21日	—	手洗いの励行。不衛生な食材や調理環境での危険性が高い。流行地域での生もの、生水に気をつける。	-
パラチフス		病状により、学校医その他の医師において伝染の恐れがないと認めるまで	気道、角膜接触、汚染物	5~7日	発病後2~3週	伝染力が非常に強いので、患者の触ったものをよく消毒しておく。手洗いの励行。	春~夏
流行性角結膜炎(ハヤリ目)		涙がよく出る。目ヤニ、異物が入っている感じ。結膜が充血する。	結膜、汚染物	1~2日	発病後5~7日	患者の触ったものをよく消毒しておく。手洗いの励行。	春~夏
急性出血性結膜炎		きつい充血。出血してくる。	結膜、汚染物	1~2日	発病後5~7日	患者の触ったものをよく消毒しておく。手洗いの励行。	春~夏

学校感染症に罹った場合は、学校へ連絡してください。北小学校(72-3025) 症状、病状の度合、出席停止期間は、個人差があります。必ず医師の診断に従ってください。

『新型コロナウイルス感染症』『インフルエンザ』以外の感染症は、登校する際には、『診断書』又は『完治証明書』の提出をお願いいたします。